C—28　中学生の成長の縦断的研究
——それに基づく衣服寸法への一考察——

お茶の水女大家政　　大村　知子

1.　中学生時代は成長量の大きな時期に当っており，成長の様相に著しい個体差がみられるように思う。そこで，各個体の成長の推移を把え，衣服寸法に関する研究の基礎資料とする目的をもって，男女中学生の成長様相を縦断的に観察し，中学生の体型と成長に伴うゆとり量等の検討を試みた。

2.　資料は，埼玉県某中学校の男女中学生（男子63名女子75名）を対象として，1965年から1967年の３ヵ年にわたり毎夏，追跡的に身体計測を行なって得たものである。計測した項目は37項目であるが，今回の研究項目は衣服寸法に関係が深いと思われる身長・下肢長・袖丈・肩峰幅・背肩幅・胸囲・胴囲・腰囲・頸付根囲・体重の合計10項目である。

3.　a）各項目の成長様相を概観すると，中学１年時では，全項目共女子が男子を上まわっているが，その後男子は顕著な増大を示すのに対し，女子の成長は緩慢になるので，３年時では胸囲・腰囲を除き，男子の方が女子より著しく優位となる。

b）各個体の推移については，各項目とも男女いずれも，かなり強い個性が観察される。また，中学１年時成績とその後２ヵ年間の成長量との相関は一般に低く，成長量を予測することは，困難であると思われる。

c）縦断的観察の結果，成長量について変異の幅を把握することができたので，平均値と標準偏差とにより，成長に伴う衣服のゆとり量を設定してみた。